

食糧支援の現場から～東ティモール～

今月、WFP日本事務所職員・中井恒二郎が東ティモール民主共和国を訪ね、現地におけるWFPの活動などを視察してきました。独立後5年を経た東ティモールは今どうなっているのか、中井よりご報告します。

「危ない、ストップ！ちょっとここで様子を見よう。」
WFP東ティモール事務所に勤務するWFPの日本人職員、渡辺高光の声が車の中で響いた。外を見渡すと、現地の若者グループがナタを振り回して、騒ぎを起こしている。治安維持に当たっている国連の警察官がすぐに駆けつけるが、警察がいなくなるとまた騒ぎを起こし始めた。

ここはインドネシアの東側、東ティモール民主共和国リキサ県の一部。東ティモールは2002年5月20日にインドネシアから独立を果たした、21世紀最初の独立国家である。独立後は国際社会からのサポートを受け、平和構築の成功例となるはずであった東ティモールだが、東西に分かれての対立が強まり、政治・社会状況は2006年の4月頃から再び混迷を深め始めた。



カメラが大好きな東ティモールの子どもたち

我々が訪問した2007年の7月下旬から8月上旬にかけては、6月の議会選挙を受けて、ノーベル平和賞受賞者で現大統領のラモス・ホルタ氏が、

与党フレティン(東ティモール独立革命戦線)の幹事長マリ・アルカティリ氏が、独立運動の英雄であり野党連合を率いるシャナナ・グスマン氏のどちらを首相に任命するかで、政治的に緊張が高まっており、我々の車も投石されそうになった。(我々が東ティモールを去った翌日の8月6日にグスマン氏が首相に任命され、首都ディリなどで暴動が起こったそうだ。)



WFPの配給食糧に自宅でできた野菜を混ぜた食事

WFPはここ東ティモールで、4つの活動をしている。国内避難民への食糧配給、学校給食、かんがい施設や農道などのインフラ整備工事に参加した人に食糧を配給する事業、そして今回視察してきた母子保健事業だ。

東ティモールではインドネシア統治時代に日本のJICAの協力で導入された母子手帳が普及していた。手帳に記載されている年齢と体重の表に照らし合わせて、体重が基準値以下の5歳未満児に対して豆類や栄養強化食品(とうもろこしと大豆の粉にビタミンやミネラルなどを加えたもの)を配給する。また、栄養が足りない妊婦や授乳中の母親にも同様の食糧が配給される。

東ティモールでは1人の母親が生涯平均で7人以上の子供を生む。我々が訪問した病院では2時間前に生まれたばかりの赤ちゃんがいたが、その子は12人目ということだった。どこの国でも母親が子供を愛する気持ちは変わらないもので、0歳の時から母子手帳にきっちりと体重を書き込んでいた母親の姿が忘れられない。



診療所で子どもの体重を量る母親

今回の視察では、首都・ディリにあり、日本のNGOが支援しているパイロピテ診療所も訪問し、現地で働く医師・藤川なみか先生にお会いすることもできた。結核患者からハンセン病患者まで一人ひとりの患者の身体を触りながら、思いやりをもって、しかしテキパキと診察する藤川先生の様子は、まさに「赤ひげ先生」を彷彿とさせた。

ここパイロピテ診療所では処方が全てに優先される。私が診療を見学していた時も、結核の疑いのある患者に対して、2週間かかるレントゲンの結果を待たずに、結核治療の開始を即決していた。その間に病状が悪化するかもしれないとの判断からだ。WFPは全世界で結核などの患者に食糧を配給しているが、体力を回復させ、治療を効果的なものにするためには、WFPの食糧はかなり有効だろうと感じた。

今回の視察では人道支援のあり方、東ティモールの発展のあり方など色々な意味で考えさせられた。東ティモール人のあるジャーナリストが言っていた言葉が今でも忘れられない。「東ティモールは日本、欧米とは違うユニークな発展を目指している。経済発展よりも大事なことはたくさんある。それは民主主義であり、豊かな自然を守ることであり、人間らしく生きることだ。国際社会は東ティモールの自主性を尊重し、必要な技術を移転してほしい。お金やものだけほしいわけじゃないんだ。」この国の将来は彼ら東ティモール人が担うのであり、我々支援関係者は、温かい目でこの国の発展を見守り、あくまでサポート役に徹するべきなのではないだろうか。



パイロピテ診療所における6ヶ月の治療の結果、歩けるようになった結核患者

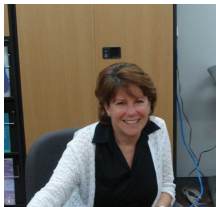


きれいな海岸線をもつ東ティモール



WFPのHIV/エイズに対する取り組み

先月、WFPのHIV/エイズ部門で代表を務めるロビン・ジャクソンが来日し、WFPのHIV/エイズに対する取り組みについて講演をしました。



取り組みについて語るジャクソン

国連には、UNAIDS(国連合同エイズ計画)というHIV/エイズ対策のための組織があります。このUNAIDSにはWFP、ユニセフ、世界銀行など合わせて10の国連機関が関わり、共同でHIV/エイズ対策に取り組んでいます。そのうち、WFPは食糧支援機関として、栄養と食糧に関する分野を担当しています。



WFPの支援を受ける、ジンバブエのエイズ孤児

HIV/エイズへの支援というと、薬学的な方面ばかりが強調されがちですが、食糧支援も外せない重要な要素の一つです。例えば、エイズの発症を抑えるためにHIVの増殖を防ぐ抗レトロウイルス薬という薬が用いられますが、栄養状態の悪い患者にその薬を使用すると、強い副作用が出てしまいます。そのため、治療と並行して、栄養状態を改善することが不可欠なのです。

また、WFPの学校給食プログラムは、HIV/エイズで父母を失ってしまった子どもが、学校に通う手助けをしています。

特に両親を失い養父母のもとで養われている子どもや、家族の中の年長の子どもは、外で働いたり家の手伝いをしたりすることを求められがちで、なかなか教育を受けられません。そのような子どもに対しては、WFPは学校で家に持ち帰るための食糧を提供し、家族の経済的負担を和らげるとともに、親に子どもを学校に送り出させるように働きかけています。

さらに学校では子どもへのHIV/エイズ教育にも力を入れています。この教育を受けている女の子は、そうでない子に比べて、HIV/エイズにかかるリスクが低いという結果が出ています。

このほかにもエイズ孤児のための学校を作り、そこでFAO(国連食糧農業機関)が農業技術を教え、WFPが給食を支給するといった共同事業も行ってきました。

WFPとしては、すべてのHIV/エイズ感染者やその家族の人が食べ物を得ることができるようにすることを、目標として活動に取り組んでいます。ロビン・ジャクソンは「もっと多くの人に、HIV/エイズに対するWFPの取り組みについて知ってほしい」と述べていました。



FAOと共同で行っているエイズ孤児を対象とした農業訓練



WFP生徒作文コンクール 作品募集中

今年で4回目を迎えたWFP生徒作文コンクール。例年、多くの子どもたちに夏休みの自由学習として取り組んでもらっています。

今年のテーマは「地球のハラペコを救え。～私の作戦～」です。1人でも多くの日本の子どもたちに、世界の飢餓状況を知り、理解し、自分自身の生活に投影していただけることを、そして1つでも多く、飢餓撲滅に向けた斬新なアイデアが寄せられることを願っています。

入賞者は10月に東京・渋谷の国連大学ビルで行われる表彰式にご招待します。応募締め切りまであと約一ヵ月。力作をお待ちしています。



第3回作文コンクール表彰式
(渋谷・国連大学ビル レセプションホール)



テーマ	「地球のハラペコを救え。～私の作戦～」
題名	自由
応募締め切り	2007年9月20日(必着)
部門	小学生部門(5・6年生)、中学生部門(1～3年生)
応募形式	1) 日本語に限ります 2) 作文の長さは1000字から1200字まで 3) パソコンなど機械による入力の場合は1枚あたり20字×20行

詳しい情報、応募票、募集チラシはwww.jawfp.org まで。



FEEDキャンペーン 大好評のうちに終了



トップモデルのローレン・ブッシュ氏が、飢餓撲滅を願ってWFPとのコラボレーションによりデザインした「FEED」Tシャツとバッグ。アメリカで圧倒的な支持を得たこの製品が日本にも上陸し、雑誌『マリ・クレール』の協力でチャリティ販売されました。バッグとTシャツは瞬く間に完売し、これまでに売り上げから約60万円が、WFPの学校給食プログラムへと寄付されました。

ローレン・ブッシュ氏はこれまでもWFPの名誉スークスパーソンとして、世界中の飢餓に苦しむ人々への支援を呼びかけてきました。グアテマラ、チャド、タンザニアなど、訪れた国々で飢餓の現状を目の当たりにしたブッシュ氏は、状況を変えるために何かアクションを起こしたいと強く思うようになり、「FEED」Tシャツとバッグをデザインしました。

Tシャツにプリントされている数字の「100」は、このTシャツ1着で100人の子どもが1回、給食を食べられることを表わしています。

また、トートバッグはリバーシブルになっており、裏面には「1」とプリントされています。これは、バッグ1点を購入すると1人の子どもに1年分の給食を提供できるという意味です。

『マリ・クレール』の取材に答え、ブッシュ氏は「どんな小さなことでも、必要としている人を思ってアクションを起こすことは気持ちがいい」「ほかの人もこの気持ちよさを味わってくれるといいと思う」と、WFPへの支援を呼びかけました。





私たちのWFP支援 日頃WFPをご支援いただいている企業・団体の取り組みをご紹介します

オーロラ株式会社 ～商品を通じてWFPの活動を支援～

オーロラ株式会社(国連WFP協会評議員)は、洋傘・洋品・帽子の企画製造卸販売の会社です。総務部長の村山良行さんを中心に、会社をあげてWFPを支援しています。

WFP支援のきっかけは？

国連WFP協会の顧問である加賀美由加里さんからのご紹介で、2006年に国連WFP協会評議員になりました。それ以来、社員の間で飢餓問題に対する意識を高めるためにオフィスにポスターを掲示するなど、地道な取り組みを重ねてきました。



オフィスでハンガーマップと一緒に写る村山さん。
「私たちの商品でWFPのイベントに協力でき、うれしく思います。」



ウォーク・ザ・ワールドの参加者は、鮮やかな色のキャップをかぶって元気に歩きました。

支援の内容は？

去年、今年と2年続けて、WFPのウォーキングイベント「ウォーク・ザ・ワールド」の協賛企業となり、参加者に配布するため特別にデザインしたキャップを提供しています。

参加者の皆様にキャップをかぶっていただき、楽しみながらウォーキングをしていただけることを大変うれしく思っております。何より自社のビジネスを活かしてWFPへの支援を呼びかけることができるのは、企業として大変に幸せなことと考えております。



ペルーの大地震被災者への緊急支援

8月16日(日本時間)にペルーで発生した大地震の被災者に対し、WFPは地震発生から12時間後に緊急支援を開始。ペルーに備蓄されていた食糧や、隣国エクアドルの備蓄倉庫から緊急空輸した高タンパク質ビスケット9トンなどを含め、すでに500トン以上の食糧を被災者に配給しました。

WFPは今後9ヶ月の間、8万人を対象に緊急支援事業を行う予定です。特に2歳以下の子ども、女性、高齢者などの弱者に対しては、栄養状態が悪化しないよう重点的に支援を行っていきます。また、インフラの復旧工事を行う際には工事現場で働く人たちに対して食糧を配給するなどし、復興作業も後押ししていく予定です。

この緊急支援事業に必要な資金は610万米ドル。WFPは現在、国際社会に支援を呼びかけています。

このような状況を受け、国連WFP協会では皆様のご支援を届けるべく、緊急募金を受け付けています。皆様の温かいご支援をお願いいたします。

詳しくはこちらをどうぞ→http://www.jawfp.org/donate_campaign13.html

発行： WFP日本事務所
特定非営利活動法人 国連WFP協会